

コーチング論		講義	准教授 山口 重信	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの専門選択科目、スポーツトレーナーコースの選択必修科目 教職科目 柔道整復師コースの教養選択科目 教職科目 救急救命士コースの教養選択科目 教職科目	科目ナンバリング	11321102 11532107 12220118 12532107 13220121 13532107	

1. 授業のねらい・概要

近年のライフスタイル変化にともない、スポーツは人々の生活を豊かにするために欠かせない要素の一つとなってきた。スポーツジムやフィットネスクラブなど施設を利用したものに限らず、スポーツ教室のように地域の人々が集まって取り組むケースも多く見られ、スポーツ指導者を求める声も高まってきている。

本講義は、公益財団法人日本スポーツ協会の「公認スポーツ指導者制度」で定めるカリキュラムに基づいて行う。スポーツのコーチングに関するさまざまな知識を身につけ、「スポーツを安全に、正しく、楽しく」指導し、「スポーツの本質的な楽しさ、素晴らしさ」を伝えることができる人材に育ってほしいと考えている。

2. 授業の進め方

公認スポーツ指導者養成テキストを参考に進めていく。講義内容に関連したビデオの鑑賞なども行う。

また、与えた課題についてのレポートを提出してもらい授業内容の理解度を確認しながら展開していく。

3. 授業計画

1. ガイダンス～本講義の概要説明	9. 指導計画の立て方
2. スポーツ指導者とは	10. スポーツ指導計画の重要性
3. スポーツ環境からみた指導者の役割	11. 指導計画の検証
4. 指導者の心構え・視点	12. ドーピング防止に必要な知識
5. スポーツ指導者のコミュニケーションスキル	13. スポーツ活動と安全管理
6. 一貫指導とそのシステム化の重要性	14. 安全確保のための具体的行動
7. 発達発育とスポーツ	15. まとめ
8. 時代をリードするコーチング（女性コーチの活躍）	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

前回の講義内容を復習し、理解して自分の言葉で表現できるようにしておく。なお事前課題があれば予習をしておくこと。これらの学修には、2時間程度が必要である。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポート提出の際、解答などを説明する。

6. 授業における学修の到達目標

スポーツにおけるコーチングの知識を身につけて、指導現場で活かせるようになる。

7. 成績評価の方法・基準

授業への取り組み姿勢（50%）およびレポートの結果（50%）を総合的に評価する。

8. テキスト・参考文献

リファレンスブック

9. 受講上の留意事項

受講時間数も単位修得に必要とされる科目のため、講義回数の3分の1以上欠席した場合は単位を与えない。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。